

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年 3月30日

【評価実施概要】

事業所番号	4071900940		
法人名	有限会社 グループホーム夏吉園		
事業所名	グループホーム 夏吉園		
所在地 (電話番号)	〒825-0004 福岡県田川市大字夏吉3614番地の1 (電話)0947-45-3108		
評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴二丁目5-27		
訪問調査日	平成21年3月24日	評価確定日	平成21年4月9日

【情報提供票より】(平成21年3月13日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年6月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	28 人	常勤(専任3人 兼務4人) 非常勤 21人 常勤換算 13.2人	

(2) 建物概要

建物形態	併設 <u>単独</u>	築 5年
建物構造	木造平屋建て 造り	
	1階建ての	階 ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000 円	その他の経費(月額)	光熱水道料 6,000 円
敷金	有() 円	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 930 円		

(4) 利用者の概要(平成21年3月13日現在)

利用者人数	18名	男性	3名	女性	15名
要介護1	2名	要介護2	5名		
要介護3	7名	要介護4	3名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 87.4 歳	最低	81 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	上野病院 ・ やました歯科
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

郊外の自然環境に恵まれ、澄み切った空気に包まれたなかに、家庭的で温かい雰囲気のグループホーム夏吉園がある。広い庭は新鮮な野菜や果物が植えてあり、玄関周りの花壇は、地域のボランティアの方々の手入れで、春の花が咲き乱れている。部屋の中からは利用者と職員の笑い声や歌声が聞こえ、玄関を入るとボランティアによる「お話やゲーム」が始まっていて、利用者一人ひとりの表情が生き生きとして、思わず仕事を忘れてしまう雰囲気である。施設長、ケアマネージャー、管理者、職員のチームプレーが素晴らしく、家族からの信頼は絶大である。利用者一番の楽しみである食事は、職員と一緒に楽しい会話の中で、味、色合い、盛り付け等、食欲を増進する細やかな配慮があり、水分補給は還元水を使っている。また、この冬は、風邪を引いた利用者や職員はほとんどなく、健康管理に万全の環境と対策を取り、利用者はホームでの暮らしに、メリハリのある充実した日々を過ごしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善点は「市町村との連携」「非常食、飲料水、毛布等の備蓄」等であったが、施設長、ケアマネージャー、管理者、職員が一年間、外部評価に備えて努力した結果改善されている。また、改善項目でない部分も質の向上を図り、すべてのレベルアップを目指し、更なる介護サービスの質の確保と向上を目指していくことを期待する。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は、施設長、ケアマネージャー、管理者、職員が話し合い、利用者が快適で、安心して暮らせることを目指し、作成している。評価結果は全員で回覧し、一人ひとりが評価を理解し、問題点や気づきを見つけて、日々の介護サービスに繋げている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	会議は、利用者家族会会長、地区区長、公民館館長、市職員、ホーム代表、施設長、ケアマネージャー、管理者等で構成し、2ヶ月毎に定期的に開催している。現在まで16回開催され、活発な意見交換の場として、双方向的な会議になっている。今後は地域包括支援センター職員の参加を再度招聘し、運営推進会議が地域密着型サービスにとって欠かせない会議であることを説明し、理解を得て、参加してもらうことが望まれる。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族会を定期的に開催し、時には利用者、家族、職員と一緒に日帰り旅行等を行い、コミュニケーションを取りながら、家族からの要望や心配事の相談が自然に出されるように配慮している。定例家族会には参加者がいつも20人位になり、ホーム自慢の美味しい食事をしながらの楽しい会議である。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	利用者と職員は、地区の敬老会、文化祭、神幸祭、清掃活動に積極的に参加し、春の神幸祭では宮総代を務めるホーム代表が、笛を吹いたりしている。また、ホーム主催の夏祭りでは500本用意した手作りうちわが足りないくらいの参加者で盛り上がり、二大行事のひとつ、クリスマス会も沢山の家族や地域住民の参加で地域と利用者、職員の交流が活発に行われ、地域密着型グループホームとして、日々進化している夏吉園である。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「ゆったり楽しく家庭的な雰囲気を作る」「信頼関係をつくり人としての尊厳を大事にする」「地域と共に生き、地域に愛される園作りをめざす」という理念を作り、利用者の、日々の暮らしの支援に取り組んでいる。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝のミーティング時に職員全員で理念を唱和している。施設長、管理者、ケアマネージャー、職員は、理念を共有し、理解して、実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	代表、職員の多くが地域に住んでいて、地域との交流は密であり、近所から味噌、野菜の差し入れ、花壇の手入れをしてくれるボランティアや、敬老会、文化祭、清掃などの行事に参加している。また、園の夏祭り、クリスマス会に大勢の地域の方が訪れるなど、地域に根ざした交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は項目を一つひとつ読みあげ、職員が意見を出し合って管理者がまとめる形で作成した。今回は、職員一人ひとりが分担して自己評価に取り組み、評価を活かしていくことを検討している。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2ヶ月に1回、家族会会長、区長、公民館館長、市役所介護保険課職員、ホーム職員が参加し、開催している。園の状況報告、行事案内、問題点などについて活発な意見交換が行われている。		平成21年度より、5年間継続して外部評価を受審すると2年毎の受審に制度が変る条件として、運営推進会議を年6回以上開催していること、メンバーに行政職員または、地域包括支援センター職員が必ず参加することとなっているので、地域包括支援センターに趣旨を説明し参加してもらうように再度要請していくことが望まれる。
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	園の行事(夏祭り、クリスマス会)に市の介護保険課職員の参加があったり、公民館での介護予防教室、地域の介護相談等を受けるなど、市との協働によりサービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	権利擁護に関する制度の理解活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護事業や成年後見制度に関する研修会に参加し、パンフレット、資料なども揃え、利用者、家族が必要とした時にいつでも支援できる体制である。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、「ほのぼの夏吉園だより」で行事予定や利用者の日頃の暮らしぶりを伝え、健康状態については一ヶ月の状態をまとめて報告している。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各棟に「ご意見箱」を設置している。また、家族会を定期的に開催し、年に1回、利用者、家族、職員と一緒に日帰り旅行を行い、コミュニケーションを取ることで家族からの要望、意見などが出やすい雰囲気を作っている。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は少なく、利用者とは馴染みの関係である。異動が避けられない場合は、利用者へのダメージを防ぐよう配慮している。		
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は職員の募集採用にあたっては性別や年齢などを理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きと勤務し社会参加や自己実現の権利が十分に保障	職員の採用に、性別や年齢の制限はない。年齢の幅が広いがゆえに、利用者のニーズにも応えることが出来ている。職員はそれぞれの力を発揮し、学びあい、支えあって生き生きと勤務している。		
12	20	人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員などに対する人権を尊重するために、職員などに対する人権教育、啓発活動にとりくんでいる	「利用者は人生の先輩である」と考え、利用者への尊厳を守りながら、日々寄り添っている。また、人権教育研修会にも参加している。		
5. 人材の育成と支援					
13	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の能力に応じた研修、指導を行っている。特に、接遇の研修に力を入れており、毎月2回、講師による段階的な研修が行われている。訪問時、職員一人ひとりに笑顔と大きな声で丁寧な挨拶があり、接遇の教育の成果が伺える。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の勉強会などに参加している。また、近隣のグループホームと、情報交換や職員研修を兼ねた相互訪問を行うなど、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。		
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者や家族は、園の見学や行事への参加を通して、少しずつ雰囲気馴染めるよう工夫している。ショートステイの利用が可能などときは要望に応じて利用していただき、入居希望者、家族が安心して入居出来るよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事の前には、利用者と職員と一緒に賑やかに盛り付けをしている光景が見られ、食後の一時を、お互いの顔を寄せ合って一緒にテレビの野球観戦をしている姿からは、一緒に暮らし、喜怒哀楽を共にして、家族のように支え合う関係が見られる。		
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、利用者一人ひとりに寄り添い、思いや意向の把握に努めている。意向の表出の困難な利用者については、家族に相談したり過去の履歴を参考に利用者本位に対応している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、利用者、家族、職員の要望、意見を反映し、利用者がより良く暮らすための介護計画を作成している。		
19	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の状態変化が見られないので、6ヶ月に1回の見直しを行っている。利用者の状態に変化が生じた場合は、利用者、家族の了解を得て、その都度計画を見直ししている。	○	利用者の状態変化に合わせ、その都度介護計画を作成しているため3ヶ月毎の見直しでは、利用者の状態変化は殆んど見られないが、新鮮な目で定期的に利用者の変化を把握していくことが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者、家族のその時々々の要望に応じた支援を行っている。また、デイサービス夏吉の里との交流が盛んで、利用者の楽しみにしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回の往診を受診している利用者、入居以前のかかりつけ医を受診する利用者、それぞれの希望を大切にし、適切な医療が受けられるよう支援している。		
22	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けた方針は契約書の中に明記し、早い段階から利用者、家族などと繰り返し話し合い、意向を確認し、かかりつけ医と協力しながら全員で方針を共有している。		
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりの尊厳を大切に、言葉遣い、声かけや対応に細やかな心配りが見られる。守秘義務は徹底されており退職者に対しても同じである。		
24	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のその日の体調、気分を大切に、天気の際は食材の菜の花や土筆を摘みに散歩に出掛けたり、中庭でお茶を飲んだり、その人らしい一日が過ごせるよう支援している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者にとって、食事は最大の喜びであり生きる力になるという施設長の思いから、園の生活の中で食事はとても大事にされている。利用者職員と一緒に準備、片付けを行い、料理には季節の旬のものを取り入れ、品数も多く、盛り付けにも工夫を凝らし、食事が楽しいものになるよう支援している。		
26	57	入浴を楽しむことのできる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	活生水素水使用による24時間対応風呂で利用者が好きなきときにいつでも入浴できる体制である。また、入浴を拒む利用者に対しては、午前中から声かけを始め、時間をおいて辛抱強く繰り返し声をかけながら入浴支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者、一人ひとりの能力に応じて、食事の準備、味付け、盛り付け、配膳、お皿拭き、洗濯物干し、たたみ、掃除などの役割を分担し、また、楽しみごととしてレクリエーションで歌を歌ったり、ぬり絵、カルタ取り、折り紙など、楽しみごとや気晴らしの支援をしている。		
28	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は散歩やドライブに出かけたり、デイサービス夏吉の里に遊びに行ったり、中庭で食事をしたり、お茶を飲んだり、ホームの中だけで過ごさず利用者一人ひとりの希望に添った支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけないケアに取り組んでいる。職員は利用者の習慣や行動を把握し、見守り支援している。		
30	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、地域の方と一緒に非難訓練を実施している。また、毎月、利用者職員とで非難訓練を行い、災害時に備えて食料、飲料水の準備をしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスに配慮し、食事の摂取量と水分量は記録している。特に水分量は一人一日1500ccは摂れるよう支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テーブルセンター、ランチョンマット、クッションなど全て施設長の手作りで温かみのある雰囲気である。また、園内に季節の花が生けられ、壁には手作りの飾り物、絵などが飾られている。大型の空気清浄機、加湿器を置き、空気はよどみが無い。中庭にはカフェテラスがあり、穏やかで居心地の良い共用空間である。		
33	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は全室畳敷きで、落ち着いた雰囲気である。利用者は馴染みの家具や使い慣れた物を持ち込み、写真、絵、書の作品などを飾り、居心地よく過ごせるよう工夫している。また、夫婦単位で利用できる居室もある。		